

第15回ピッチイベントの施設管理者ニーズ

テーマ No. 1 : 河道及び護岸の変状箇所の効率的かつ定期的な調査

【理 由】

河道及び護岸の調査は現地確認により行っているが、大規模出水後等の緊急を要する場合や通常点検時において時間を要している。

【条件等】

- ◇極力費用が安価な技術
- ◇緊急的また定期的な調査において安定的に調査が可能であること

テーマ No. 2 : 小規模橋梁への新技術活用

求める技術と理由	条件等
〔No.2-1〕 小規模橋梁向けの新技術活用 【理 由】 本市が管理する橋梁の約8割が15m未満の橋梁となっており、新技術の活用の検討が求められているが費用面の課題等があり採用に至らない場合がほとんどである。 新技術の活用に関する調査を依頼されることが多くなっているが事例がなく困っている。	◇従来工法と比較し安価な技術であること ◇工期の短縮につながること
〔No.2-2〕 新技術の導入による補修等のコスト削減 【理 由】 点検及び補修の際に新技術の活用を検討しているが、導入することによる大幅なコストの削減を見込めない。点検及び補修の際に新技術を活用したことにより、狭小橋梁等でもコスト削減がされた事例があれば知りたい。	◇狭小橋梁でも使用できる新技術
〔No.2-3〕 JR跨線橋の修繕 【理 由】 JRの施工上の制約等や仮設が必要なため通常の道路橋に比べ補修等に莫大な費用がかかり、市の財政上非常に負担が大きく事業の進捗にも大きく影響する。	◇JR跨線橋に特化した安価な技術
〔No.2-4〕 小規模鋼橋梁のケレン方法 【理 由】 小規模な鋼橋の場合は桁端部や支承周りが極端に狭小な場合があり、電動工具によるケレン作業が十分にできない場合がある。	◇狭小な空間でもケレン作業の品質が確保できる技術

テーマ No. 3 : 下水道の管渠を部分的に補修する修繕技術

【理 由】

1スパンごとの改築更新(製管工法)を基本に老朽化対策を進めているが事業費の高騰や事業の長期化が課題となっている。

【条件等】

◇口径2m以上の汚水管においてクラック、破損、浸入水の部分的な補修を改築と同等の耐久性を確保できる工法であること

◇短期間で施工可能であること